



「慢性腎臓病」

脳卒中や心筋梗塞のリスクが3倍！？
自覚症状が出る頃には透析が必要！？



「慢性腎臓病」とは



腎臓高血圧内科
佐藤 英一

資格・所属学会

医学博士 日本内科学会総合内科専門医
日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会透析専門医
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医
日本急性血液浄化学会認定指導者
日本アフェリシス学会認定血漿交換療法専門医
日本医師会認定産業医 日本医師会認定健康スポーツ医
臨床研修指導医 腎代替療法専門指導士 PKD認定医
第1回腎臓リハビリテーションガイドライン講習会修了

慢性腎臓病とはどんな病気ですか？

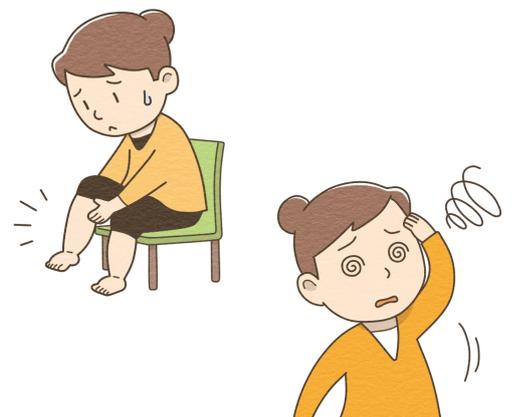
腎臓にはさまざまな働きがあります。体内の老廃物や水分を排泄して体内をきれいにしてくれています。ほかに血圧の調整や赤血球を作ったり骨を強くする働きもあります。この腎臓がさまざまな原因で働きが低下すると慢性腎臓病となります。最近では腎炎という腎臓の病気だけでなく糖尿病や高血圧、動脈硬化による慢性腎臓病が増えています。しかし、初期には自覚症状がないため健康診断などで見つかることが多くなっています。また、症状がないため受診が遅れることも多いです。慢性腎臓病は主に血液検査と尿検査で診断されます。糸球体濾過量（尿を作り出す力 eGFRと呼びます）が

60未満か尿検査の異常（特にたんぱく尿が大事です）のいずれかまたは両方が3か月以上続きますと慢性腎臓病と診断されます。

進行するとどんな症状が表れますか？

慢性腎臓病が進行すると老廃物や水分が体内にたまり尿毒症やむくみの原因になります。さらに血圧が高くなったり貧血が進んだり骨もろくなることもあります。尿毒症にはさまざまな症状があり、倦怠感やむくみ、たちくらみ、頭痛、かゆみ、息切れ、夜間尿などがあります。特にたんぱく尿が多くなったり糸球体濾過量（eGFR）が低下するにつれてこれ

	G1	G2	G3a	G3b	G4	G5
eGFR値*	90以上	89~60	59~45	44~30	29~15	15未満
腎臓のはたらきの程度	 正常	 軽度低下	 軽度~ 中等度低下	 中等度~ 高度低下	 高度低下	 末期腎不全
治療の目安		生活改善	食事療法・薬物療法		透析・移植について考える	透析・移植の準備



▲eGFR値と慢性腎臓病治療の目安

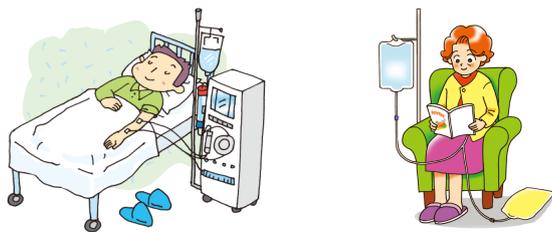
らの症状が強くなってきます。適切な食事療法（塩分制限が大事です、たんぱく質の制限は病状によります）や薬物治療などを行っていないと、尿毒症やむくみだけでなく、高血圧、心不全、不整脈などを起こしたりして生命にかかわってきますので、透析治療を行う必要がでてきます。

慢性腎臓病の患者さんはどんな治療を行いますか？

慢性腎臓病の治療は原因となる病気の治療を行うことが大切です。また規則正しい生活（適度な運動、禁煙など）、食事療法（塩分制限が大事）、血圧管理（130/80以下、尿たんぱくが多い場合125/75以下が目標）が必要です。



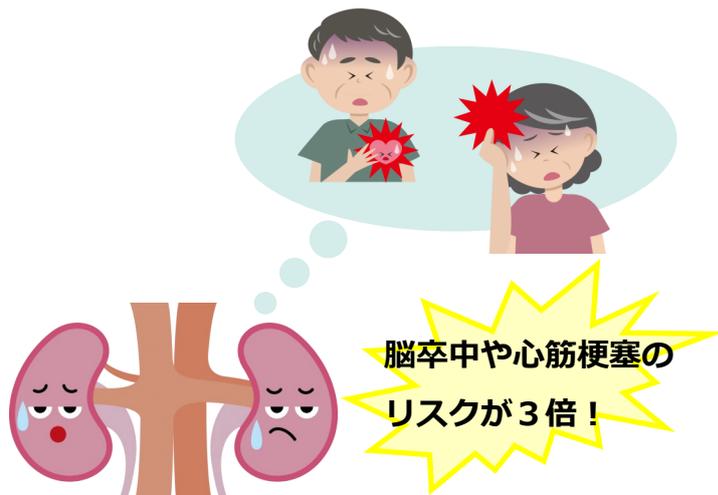
それでも腎臓の働きが悪くなった場合に透析療法を行います。透析療法は悪くなった腎臓のかわりに人工的に体内の老廃物や余分な水分を取り除き体調を回復させる治療で血液透析と腹膜透析があります。どちらの方法を選ぶかは病状や生活習慣などをもとに患者さんが医師やスタッフとともに一緒に考えて決めていきます。腎臓の働きがもとに戻る方法ではありませんが、生活面や食事、血圧を管理することで透析療法を行いながら体調を十分に整えることができます。



慢性腎臓病の患者さんは脳卒中や心筋梗塞になりやすいというのは本当ですか？

近年、慢性腎臓病の患者さんは、脳卒中や心筋梗塞の発病が高くなることがわかってきました。10年以上慢性腎臓病の

患者さんの経過をみていくと慢性腎臓病のない患者さんと比べて脳卒中や心筋梗塞が約3倍多くなることもわかっています。慢性腎臓病は腎臓だけに注目しがちですが、腎臓だけでなく全身、特に心臓や脳などの血管の病気に影響があるといえます。原因もさまざまです。もともと糖尿病や高血圧をもっている方はそれだけでも血管を傷めていることが多いですが、慢性腎臓病があると尿毒症などの影響からさらに血管を傷つけることになるかとされています。慢性腎臓病の早期発見や治療は、慢性腎臓病の進行のみならず心臓や血管を守る意味でも大切なことといえます。



PLAZA IMSをご覧の皆さまへメッセージをお願いします

慢性腎臓病は進行するまで症状が少なく気づかれることがない病気です。しかし日本には1000万人以上いるとされている国民病でもあります。最近では腎臓病の進行をゆるやかにするお薬もでてきています。慢性腎臓病についてご心配をお持ちの方は、まずは当院腎臓高血圧内科の医師にご相談ください。当科では慢性腎臓病の早期発見、診断、治療を行い、腎不全に進行しないような診療を心がけております。また透析治療が必要となった方に対しては血液透析、腹膜透析ともに行っております。当院ではCKD外来という慢性腎臓病専門外来を毎週土曜日午前に、また腎臓内科の医師も外来診療を行っておりますので、どうぞ遠慮なく当科をご受診ください。



佐藤 英一（さとう えいいち） 副院長/血液浄化センター長/腎臓高血圧内科部長

平成5年大阪医科大学卒業後、大阪大学泌尿器科に入局。腎臓病を含めた泌尿器科疾患の診療と研究に従事。その後、腎臓内科医師として慢性腎臓病の診療や透析治療を中心に、急性腎障害、腎炎、糖尿病性腎症などの診療に携わる。平成20年5月新松戸中央総合病院腎臓内科入局、腎臓病診療、透析治療のみならず腎臓病理の研究も行っている。わかりやすい説明を行うことを心がけている。

腎臓高血圧内科 専門外来

CKD外来

毎週土曜 9:00-11:00

- ・(健診などで)たんぱく尿・血尿を指摘された
- ・尿量増加・減少
- ・むくみがなかなか治らない
- ・透析と言われたけど、腎臓病の治療に悩んでいる など
お気軽にご相談下さい。

PD外来 (完全予約制)

腹膜透析(Peritoneal Dialysis, PD)とは、体に優しい自宅で自分の生活スタイルに合わせてできる透析療法です。血液透析に比べて腎臓の働きを守ることができるという利点もあり注目されています。24時間かけてゆっくり透析をするので血圧が下がったりすることもなく、痛みもありません。通院も月に1~2回ですむので忙しい方にも便利な治療法です。

【外来診療担当医表】 ※令和5年4月現在

	月	火	水	木	金	土
午前	松村		魯		野村	小野
午後	野村	森山	佐藤(英)		佐藤(英)	

SDM外来 (完全予約制)

毎週火曜・木曜 15:30-16:30

今後透析など腎代替療法の導入が見込まれる患者さんを対象に、看護師が各種治療(透析・腹膜透析・腎移植)に関する説明を行います。腎代替療法が必要となる寸前ではなく、早い段階で説明を行うことで、患者さん及びご家族が治療に対する理解を深め、患者さんのライフスタイルに合わせた最善の治療選択を行えるようサポートします。

最新情報については、
今月の外来診療担当医表を
ご確認ください。



ホームページ・各種SNSより情報発信中



▲上記QRコードからアクセス▲

病院受診、入院・介護施設選びに困ったら イムス総合サービスセンター(GSセンター)へ

好評配信中
疾患別セルフチェック

健康セルフチェック



0800-800-1632

※「050」からしるIP電話および国際電話からはご利用いただけません。
受付時間 / 平日 8:30-17:30 土曜日 8:30-12:30(日祝・年末年始休み)

gscenter@ims.gr.jp

◎右のQRコードをご利用いただくに便利です。
◎24時間365日受付。2営業日以内にご返信します。



イムス総合サービスセンター
http://www.ims.gr.jp/gscenter/

受付時間

午前 7:30~ 午後 12:00~

※受付終了時間は診療科によって異なります。

詳細については外来診療担当医表をご確認ください。

診療開始時間

午前 9:00~ 午後 14:00~

交通アクセス

JR常磐線/武蔵野線 新松戸駅より 徒歩3分

流鉄流山線 幸谷駅より 徒歩3分

駐車場あり

診療科目

内科 腎臓高血圧内科 循環器内科 糖尿病・内分泌代謝内科 神経内科

感染症内科 血液内科 泌尿器科 呼吸器内科 消化器・肝臓内科 外科

大腸肛門外科 心臓血管外科 呼吸器外科 整形外科 形成外科

脳神経外科 精神科 リウマチ科 小児科 小児外科 皮膚科 眼科

耳鼻咽喉科 放射線科 病理診断科 救急科 麻酔科 リハビリテーション科

専門センター

消化器病センター 心臓血管センター 血液浄化センター 呼吸器病センター



IMS(イムス)グループ医療法人財団明理会

新松戸中央総合病院

〒270-0034 千葉県松戸市新松戸1-380

☎047-345-1111(代)